

資源回収(リサイクル)活動行われる

～ご協力に感謝！！～

先月26日（土）、標記リサイクル活動が行われました。資源の提供等、ご協力していただいた各ご家庭におかれましては、改めまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

この活動は、生徒一人ひとりが、地区の一員としての役割を自覚し、地域の方々へ感謝の気持ちをもつことを一つの大きなねらいとしております。また、ごみと資源の違いを理解し、普段の生活に生かしていくことも大事だと考えて実施している活動です。今後とも、環境にやさしい地域、延いては社会を築いていくため、資源回収に対する各ご家庭のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



【活動の様子。例年になく残暑の中、お疲れ様でした！！】

9月1日は「防災の日」

今日、9月1日は防災の日です。ご存じかもしれませんが、その由来は、次の通りです。

9月1日は「防災の日」です。「防災の日」は、台風、津波や地震等の災害についての認識を深め、それらの災害に対処する心構えを準備するためとして、1960年に制定されました。また、1982年からは、9月1日の「防災の日」を含む1週間（8月30日から9月5日まで）が「防災週間」と定められています。9月1日は、10万人以上の死者・行方不明者を出した『関東大震災』の発生した日付に由来されています。また、8月から9月は台風の接近・上陸が多く、制定前年である1959年9月には、5,000人を超える死者・行方不明者を出した『伊勢湾台風』が襲来しています。

由来は、1923年9月1日の『関東大震災』です。保護者の皆様も、時代背景を含め、中学校の社会科（歴史的分野）では学習しますので、記憶にあると思います。

今日はその震災からちょうど100年にあたる日です。テレビや新聞でも取り上げているので、すでに目にした方も多いのではないでしょうか。

我々は、2011年3月11日の東日本大震災が記憶に新しいところですが、ちょうど100年前のこの震災が、明治以降、未だに、日本の地震被害としては最大規模の被害になっています。この大震災の混乱に乗じて、社会主義や自由主義の指導者を殺害しようとする動きがみられ、また、朝鮮人による凶悪犯罪、暴動などの噂（流言。いわゆる“デマ”）が広まり、民衆・警察・軍によって、朝鮮人、またはそれと間違われた中国人、日本人（聾啞者など）が殺傷される事件が起きました。大震災の被害ばかりか、それに乘じた事件が多発した時代があったのです。わずか100年前の出来事です。

9月1日。私は、色々な意味で教訓にすべき日だと思っています。大正時代とは社会的背景は異なりますが、実際、原発事故をはじめとするさまざまな「風評被害」は、デマや差別に通じるものではないか。殺傷事件にはならなくても、心の奥底にあるものは変わっていないのではないか。これが人間の怖さでないのか……。そんなことも考えるのです。

ただ、異常気象や自然災害が頻発する、今の時代に求められるのは、やはり、「いきる・かかわる・そなえる」でしょう。東日本大震災の教訓を生かすべきです。今朝のラジオで、専門家が話していましたが、大きな被害を引き起こす自然災害は、この50年で、約5倍になっているそうです。（どの範囲かは聞き漏らしましたが、言えるのは、異常気象による自然災害は、急増しているということでしょう）

9月は全国各所で地震を想定した避難訓練、不審者対策の防犯教室等が行われます。本校でも今月下旬に避難訓練を実施する予定です。万が一に備え、何ととっても、すべての『命』を守ることを頭に入れて、訓練に臨んでいきたいものです。

<資料>盛岡市では数年前からこんな取組をしています。

盛岡市が9月1日11時から、大地震の発生を想定した一斉防災訓練「盛岡市シェイクアウト」を実施する。シェイクアウトは2008年に米国で始まった、地震に備えるための防災訓練。「シェイクアウト」は「地震の揺れに備えろ」という安全行動の掛け声をイメージした造語で、日本では「一斉防災訓練」という意味でも通用しているという。参加者は、指定された日時にそれぞれの場所で、自分の身を守る行動を一斉に行う。盛岡市では2016（平成28）年から、毎年9月1日の「防災の日」に合わせてシェイクアウトを実施。会場の準備が不要で、天候や場所に左右されず、多くの人が同じ訓練を経験できるといった特長があるほか、基本的には同じ場所に大勢の人が集まる必要がないため、2020年からは「普段通りの新型コロナウイルス感染症の対策をしながら実施しやすい防災訓練」として参加を呼びかけている。